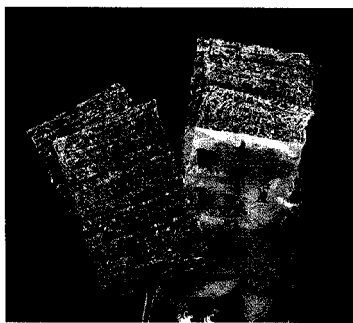


俳句の風景

鎌倉・湘南

2月放送の「俳句の風景」コーナーで紹介する
鎌倉・湘南を詠んだ名句と、
その周辺の風土や観光情報を紹介します。



湘南のたたみいわし

カタクチイワシの稚魚・シラスを炊いて、ハガキ大の枠に伸ばし乾燥させたもの。イグサで編んだ簾の上に干すので「たたみいわし」と呼ばれた。戦後、昭和三十年代にかけては平塚ものに東京築地市場で最高値が付けられたという。シラスが水揚げされた時だけに作られる。さつとあぶって醬油をかけて食べると、香ばしい香りと歯ごたえが後を引く。

大仏の冬日は山に移りけり

鎌倉の余寒居据る土の牢

屋根替の萱吊上ぐる大伽藍

寿福寺の大寒の落椿かな

ほむらとも我心とも牡丹の芽

実朝忌由井の浪音今も高し

夕煙籠めたる谷戸や梅二月

鎌倉の月まんまるし沈丁花

春潮の砂引き締めし跡を踏む

その上に又一枚の春の波

早咲きも早咲き明王院の梅

囀りのあるひは雲にとゞきけり

城ヶ島とは平らなる春の山

春潮に浮びて険し城ヶ島

春の波浪子不動の碑を守る

星野立子

成田元次

松本たかし

草間時彦

高浜虚子

同

松本たかし

高野素十

柴崎加根子

深見けん二

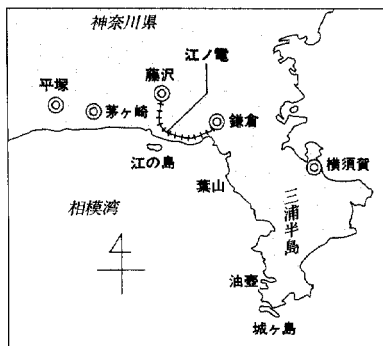
高沢良一

久保田万太郎

清崎敏郎

水原秋櫻子

小林夏女



鎌倉

神奈川県鎌倉市は、三浦半島の付け根の西側に位置し、南に相模湾を望む。古代は相模国八郡のひとつ鎌倉郡として、中世に至っては源氏の東国支配の拠点として栄えた。寺社を中心とし、今なお史跡の数々が残された歴史の町である。

治承四年（一一八〇）、源頼朝は後白河天皇の皇子以仁王の令旨を得て、平氏打倒の旗を挙げ、鎌倉に本拠地を定めた。この時、由比郷にあった源氏の守神・八幡宮の若宮を現在の場所に移して、鶴岡若宮とした。さらに頼朝は、この鶴岡八幡宮への参道である若宮大路の他、大小様々の道路の整備を進め、町づくりに尽力した。三方を山に囲まれた鎌倉から外へと通じる「七切通し」は北条泰時が執権となる元仁元年（一二三四）に完成したという。町中には武士ばかりでなく、商人や職人が集まり、鎌倉時代後期の人口は六万人とも一〇万人ともいわれている。仏教の布教も盛んで寺の数も百に及んだ。

元弘三年（一二三三）、新田義貞は海路、稲村ヶ崎から攻め入り、鎌倉の町は一面の炎に包まれ、鎌倉幕府は滅びた。

江戸時代、鎌倉には徳川家の将軍らが度々

来遊した。紀行文や案内記が出版され江の島参拝と鎌倉遊覧は庶民にも広まった。

明治以降になると、鎌倉には海水浴や療養のための家も建てられるようになる。また、由比ガ浜に居を構えた高浜虚子は「鎌倉の草庵春の風かな」と詠んだ。虚子の墓は、鎌倉五山第三位寿福寺にある。

江ノ電

江ノ島電鉄、通称「江ノ電」。藤沢から鎌倉までの全長一〇kmを二両または四両の車両が三十四分間で走る。全線単線、駅は十五あり、沿線に暮らす人たちがや高校の生徒たちの生活路線となっている。

藤沢駅を出発した電車は、別荘の名残のある住宅が建ち並ぶ中をゆつくりと進む。木杭にワイヤーを張った柵に隔てられた線路と道路。電車は人や自転車と並行して走る。三角屋根の江ノ島駅舎を過ぎると、線路は大きく蛇行する。左手には日蓮聖人ゆかりの龍口寺、次の腰越駅まで電車は、併用軌道の狭い道路の真ん中を通り、往来する自動車が一時停止して道を譲る。間もなく、電車は七里ヶ浜の海岸沿いを行く。波間には、サーフボードを操る若者の姿も見える。「春の潮球を引き去り球を置き」と川崎展宏が詠んだ材木座海岸

は、由比ガ浜と並ぶ海水浴場である。

江ノ電沿線には有名な社寺が多いので、観光に訪れた人は、何度も乗降できるフリー切符を利用すると便利である。最新型のレトロ調電車と称したブルートレイン風の車両や、四十年以上の歴史を持つ窓回りがクリーム色で緑色の車両、木製の床の車両などと、様々な車両があって面白い。「きしみゆく江の電花の風つれて」と電車の春を原柯城は詠んでいる。

鎌倉の花ガイド 花の名所のいくつかを紹介しす

◆英勝寺（佐助椿）

浄土宗の尼寺。江戸時代、水戸徳川家の姫君が代々住持に入った寺。

◆瑞泉寺（梅）

臨済宗。足利氏の菩提寺。四季折々の花が絶えず、水仙も美しい。

◆若宮大路（桜）

鶴岡八幡宮の参道の段葛に三百本。この辺りの道幅は鎌倉時代には六〇m以上あったという。

◆光則寺（かいとう）

日蓮宗。日蓮の弟子、日朗の寺。推定樹齢は百五十年ともいわれる古木。

●問い合わせ

鎌倉市役所観光課
☎0467(23)3000